



1.発掘調査前。奥に見える土手が野牛島旧運転免許センターの南側に残るお熊野堤。高さ約1.2m。

砂利・アスファルトの部分が昔の川原です



2.堤防の川表側(水流が当たる側)を掘り下げると、20cm前後の川原石がまとまって出土しました。さてなんでしょう?

覆っている砂利をどかすのは重そうだ



3.左側の石列は、竹で編んだ籠に石を詰めた竹蛇籠です。竹は腐食してなくなっていました。堤防の基礎を守るため、堤防にそって設置されたものです。

竹蛇籠は昭和34年の台風7号の水防でも活躍したよ



4.蛇籠の石を取りあげると、下に木材が敷かれていた跡が発見されました。筋のように見えるのがその部分。蛇籠の土台に使われたと考えられます。

今年は暑い



5.土台の木材痕を記録した後さらに掘り進めると、地表に現れているものより一段階古い堤防が発見されました。堤防を守るため2本の竹蛇籠が縦に置かれていました。

砂や砂利を積み上げて、堤防がつくられています



6.上記の堤防の下を掘ると、竹蛇籠を堤防の法尻に置いたもう一段階古い堤防(手前の石)が発見されました。その下層には、石積みされたさらに古い堤防(奥の石積み)が発見されました。



いろいろな知恵と工夫をして、暮らしを守ってきたんだね

洪水と戦ってきた先人の足跡だ

こんな下から石積みが見つかったわ!

7.最下層から発見された堤防。中央には竹蛇籠が1本置かれています。この下にもさらに古い堤防が造られているかもしれません。時代は江戸時代の可能性があります。今後の検討課題です。

10月現在、9・10月号で掲載した場所から東へ200mの地点を調査しています。運転免許センター時代に使われた道路のアスファルトをはがし、約20cmほど砂利を掘ると、堤防と平行して石の列が発見されました(3)。これは竹で編んだ細長い籠の中に石を詰めた竹蛇籠で、堤防の基礎を守るために置かれたたものです。竹蛇籠の石をはずすと、堤防と直行するように幅約15cmの木材が一定間隔で敷かれている痕跡が発見されました(4)。竹蛇籠を置いたための土台と考えられます。さらに発掘を進めると、下の層から、堤防の斜面に竹蛇籠が2本縦に並べられた一段階古い堤防が発見されました(5)。さらに掘り進めると下の層から20cm前後の石が積まれた別の堤防が現れました(6)。そのさらに下からは竹蛇籠と石積みを使った堤防も見つかっています(7)。以上、現時点では少なくとも4段階にわたる堤防の歴史が明らかとなりました。

このように、発掘調査によって得られる具体的な資料によって、先人たちが前御勅使川とともにくらししてきた足跡は日々明らかになっていきます。父さんや母さん、じいちゃんやばっちゃん、そのまた父さんや母さんが、どのような知恵を絞り、どのような技術を培いながら、ここで生きてきたのかを教えてください。ここしかない地元の歴史。これは私たちの財産となってこれからまじまじと入るべきものになるはずです。

まぼろしの前御勅使川堤防  
お熊野堤発掘調査最新レポート3

お熊野堤

(おくまんどい)

